

半生を振り返って

Reflecting My Past

塩満典子 Noriko SHIOMITSU

高校時代は、枕草子・源氏物語・徒然草の古典とフランス文学を読みふける日々を送った。「生命」の不思議にも心を奪われていた。

進路は文系と理系、どちらにしようかと悩んだが、「無常」の逆、不老長寿を夢見て、生命現象について研究したいと思い、理系を選択した。将来、「公務員」として働くことになるとは思ってもよらなかった。もし、オープン・キャンパスなどで女性の先輩のキャリアパスをよく知る機会があったら、異なる進路を選んでいただかかもしれない。

大学3年後半になり、将来への不安から研究者の道はあきらめ、就職準備を始めた。男女雇用機会均等法の施行前の就職活動は厳しく、企業は断念、公務員一本に絞った。試験勉強をし、1984年、第一志望の科学技術庁に就職することができた。

最初の配属先は、ライフサイエンス企画課、大学時代の知識を活かし、また、著名な研究者と身近で仕事をすることができ、やりがいのある日々であった。次の配属先の原子力調査室では、技術用語になかなかなじみず、知識の詰め込みと国会対応などで、たいへんな時期であった。プライベートは充実していたが、とにかく留学したいという気持ちが強かった。次の異動先は、研究交流課、筑波研究学園都市の国際化の促進がメインの仕事であった。

数カ月後、夢がかない、米国留学のチャンスを得た。26歳から28歳の時期である。米国で語られる「科学技術政策」は、新鮮で、日本に帰って活かさなければと思った。休暇を利用しての旅行も楽しかった。

帰国して、広報室長補佐を拝命したが、自分の価値観やものの考え方が、まわりから浮き気味であることを知った。米国では、「基礎研究」は、国を強くすることには役立

たない、むしろ、基盤研究や戦略的研究のほうが競争力強化には有用との考えが主流であった。日本が、米国からの「フリーライダー」（日本は米国の基礎研究にただ乗りしている）との強い批判を受けて、基礎研究へのシフトを強め、また、「公共投資」を増やしていることを見て、複雑な思いであった。以上が、私の20代までである。

30代以降は、上り坂、下り坂、まさかの坂の波瀾万丈であるが、紙面が限られているので、40代の内閣府・男女共同参画局時代、2004（平成16）年4月以降に、一挙に飛ぶ。ちょうど、科学技術基本計画と男女共同参画基本計画の二つの基本計画（閣議決定）の改定時期に当たった。「男女共同参画白書」（閣議決定）の特集テーマに「科学技術と男女共同参画」が選ばれ、私が原案の執筆を担当した。この頃、女性研究者支援を熱心に進めていらっしゃる貴学会の方々に、貴重なご指導をいただいた（心より感謝申し上げます）。「男女共同参画基本計画（第2次）」に、初めて「科学技術」が盛り込まれ、「第3期科学技術基本計画」にも、初めて女性研究者支援の施策のための予算的根拠が記され、18年度以降の文部科学省の予算と施策につながった。現在、33の大学・独立行政法人で、女性研究者支援モデル育成事業が進められるとともに、育児からの復帰支援のためのRPD-特別研究員制度などが整備されている。

さて、最後に、人生の「成功」とは何かを考えたい。何を達成すべきか。人々の生活水準の向上が仕事であり、その面ではベストを尽くしたが、私事ではどうか。どうも、「成功者」と言われる人々は、共通的に、明確なビジョンとその達成への強い意志をもっているらしい。しかし、たとえ、成功者になれなくても、倫理観と感謝と思いやりが、人間としてはまず大事ではないかとも思う。私の人生観は、「負け」につながるかもしれない。「成功哲学」、皆様のご意見をお聞きできる機会を楽しみにしている。



お茶の水女子大学教授・学長特別補佐。
ハーバード大学行政大学院修士課程修了
（公共政策学修士）。
専門は行政学（科学技術、男女共同参画）。
E-mail: shiomitsu.noriko@ocha.ac.jp